

野外活動が子どもたちに与える影響について

小学校の移動教室や農山村留学、地域の子ども会、あるいは家族で、千葉県少年自然の家では様々な子ども達が野外活動を行っています。今回は社団法人日本キャンプ協会会長の酒井哲雄さんに野外活動と子どもについて話して頂きました。



野外活動が子どもたちの全人的な教育に対して、補完的役割にある活動として取り上げられて来たことは久しい。しかし、今日の子どもたちの生活環境、生育状況、また子どもを取り巻く社会的諸条件を勘案するとき、野外活動は子どもたちの成長過程において、100パーセント必要且つ不可欠な体験、また文化的



学習を内包していると指摘したい。

現在の子どもたちの生活、とくに社会的、心理的側面にダメージを与えているものは、情報化による疑似体験と刹那的な恣意願

望にさいなまれることであろう。

生きるための力としての自律心は、テント設営、飯盒炊さん、冒険体験、創造的クラブ制作、集団レクリエーション活動などの

ごく平易な野外活動の諸プログラムの過程を通じて体得し得るであろう。すなわち、そのことを通じて他者と協力し、他者との優劣を評価せず、自らを制することを知ることが可能となるのである。

野外活動の時と場の設定は、大自然の中で展開されることは論を待たない。



野外での生活体験では、素朴な潜在的に本来持つ自然への感受性を呼びおこすことになり、子どもが喪失している自然への憧憬とともに、自然への探求心をかきたてる絶好の機会を与え、人間形成の基礎を成すものと高く評価したい。



主催報告 ファミリーキャンプ 母と子のアウトドアクッキング教室

5月20日～21日にファミリーキャンプを開催しました。今回は、「母子で一緒に過ごす時間」をテーマに8組26名のファミリーがアウトドアクッキングに挑戦するプログラムにチャレンジしました。

1日目は、アウトドアクッキングの基礎練習として「薪割り」「火起こし」を行いました。子ども達は、大きなナタを使ったり、普段なかなか使わないマッチで火をつけるたりすることに興味津々の様子でした。無事に火がついたところで「飯ごう蒸しケーキ」を家族毎で作り、おいしく楽しいおやつタイムを過ごしました。



夜には、翌日のアウトドアクッキングに必要な「段ボールオーブ



ン作り」に挑戦。なかなか難しかったのですが、翌日のピザのためにと母子で協力しながら、それぞれ個性豊かなオープン完成させていました。

2日目には、いよいよ前日の薪割り、火起こしの実践と手作りピザに挑戦でした。みんな上手に火をおこし「豆とパスタのスープ」をグループに分かれて作りました。苦勞して完成させた段ボールオーブも大活躍。まるで石蓋で焼いたような焼き上がりになりました。

終了後のアンケートから、「話をしたり、一緒に何かをしたという時間を持つことが出来た」といった声をいただき、自然の家ファミリーキャンプでは、これからも家族で過ごす時間を大切にしていこうと思えました。

主催報告 キャンプリーダーセミナー (キャンプインストラクター養成講習会)

5月27日～28日にキャンプリーダーセミナーが開催されました。このセミナーはキャンプの指導者の育成を目的としたものであり、今年度は実技講習編と理論講習編に分けて実施されます。今回は実技講習編として、テント設営や野外炊飯、キャンドルサービス、ロープワーク等の基礎技術について講習が行われました。当日は、雨が降ったり止んだりのあいにくの天候でしたが、プレイホール等の室内も使用しながら講習を行いました。食事は昼・夜・朝と三食も野外炊飯を行い、受講生の皆さんは、食事毎に手際が良くなっていきました。また、講習の一つであるアクティビティの講義では、プロジェクト



アドベンチャーやクライミングウォールといった千葉県少年自然の家ならではのカリキュラムが組み込まれました。普段なかなか体験することの出来ないこれらの講習に、受講生は大いに刺激を受けたようです。

今回のセミナーは、実技を行いながらの講習であったため、キャンプの知識や技術を学ぶことはもちろんですが、受講生同士がすぐに打ち解けることが出来ました。自然体験活動であるキャンプの持つ『力』を改めて感じました。

6月18日には理論講習編が行われ、そこで実施される試験に合格すると(社)日本キャンプ協会公認のキャンプインストラクターの資格が取得することが出来ます。受講生の皆さん、がんばって下さい。